

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 彦根市立城北小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒522-0002

滋賀県彦根市松原町3751-3

E-mail jyohoku@mx.hikone.ed.jp

Website https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/

幼児児童生徒数 男子154名 女子138名 合計292名

幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

(記入例)

当校は、「自他を尊重し、未来にたくましく生きる子どもの育成」を学校理念として、希望をもって自分らしさを発揮し、律する心でふるさとを大切にすることを日々の実践を通してねらっている。

ESDを城北のまちづくりの過去・現在を学び未来を考え、行動に移していく取組と捉え、ESDの実践を通して地域への誇りや愛着、社会参画への意欲の力の育成を目標とした。

具体的には、伝統文化、国際理解を柱に、①文化交流に係わる活動、②伝統文化に係わる教育、③国際理解に係わる学習、④国際理解に係わる活動を行った。

① 文化交流に係わる活動

昨年度、奈良市立飛鳥小学校の5年生が本校に来校し、それぞれ地域で大切にしていることを交流した。今年度は、地域の自慢を交流するために、6年生同士、奈良市立飛鳥小学校へ出向き交流を行った。

② 伝統文化に係わる教育

総合的な学習の時間を使って、地域の自然環境や文化財の見学を通して、地域から学ぼうとする郷土への心情や愛着心を育むことをねらいとし、全校児童が縦割り班で地域をまわり、6年生が中心となって、下級生に地域のよさをわかりやすく伝える活動を行った。地域からも、40名を超えるボランティアの協力を得て子どもたちを安全にそして、ふるさとのよさを知る機会となった。

③ 国際交流に係わる学習

本校では、英語活動に力を入れており、2年前から英語特区の指定を受け、1年生から英会話のスキルをつける活動を継続的に行っている。その中で、6年生はコミュニケーション能力の育成をねらいとして、インタビューや実際の外国の児童間での交流活動を仕組んでいる。「どのようなことを質問するか」「英語ではどのように答えたらいいのか」を追究し、英語ボランティアや地域にあるJCMU（ミシガン州立大学連合日本センター）の学長や学生の協力を得て、英会話に向けた学習を進めてきた。

④ 国際交流に係わる活動

日本とオーストラリアの時差を考え、相手校時間13:50、日本時間12:20から30分間の交流を2回行った。1回目（11月30日）はこちらが相手校に英語で質問し、英語で答える、2回目（3月9日）は、相手から日本語で質問してもらい、こちらが英語で答えるという方法をとった。コンピュータ室で、スカイプを使ってスクリーンに相手校の生徒の様子が映ると、子どもたちから歓声が上がった。質問を英語でするとブラックウッドの児童が日本語で名前を紹介し、写真を見せながら英語で答える姿が見られた。また、日本語で質問を受け英語で答えると相手が「ワオー」など、反応が見られた点も交流する楽しさとなった。自分たちの話す英語が伝わっているんだということを実感した。



ふるさとの下見と説明を聞く
子どもたち



ふるさと探訪オリエンテー
リング本番



ブラックウッド小学校との
交流1回目



ブラックウッド小学校との
交流2回目

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

・ 伝統文化に関する学習は、総合的な学習の時間として位置づけ、1年生～6年生までが関われる様になっている。中でも6年生が下級生に対して地域の伝統文化を伝えるために、課題追究をしやすい形態をとっている。また、指導方法の工夫として、市の教育委員会から指導者を招き、説明の仕方や下級生への伝え方がわかりやすいものとなるよう、指導助言をいただく場をつくると共に、校内研究として取り組んでいるテーマ「通じ合い、響き合い、創り合う授業を目指して」とも関連させ、子どもの意欲を引き出すために、学習形態の工夫や、授業での話す聞く姿勢など工夫した。

・ 国際理解に関する学習は、英語科の時間として位置づけ、ALTや、地域にあるJCMU（ミシガン州立大学連合日本センター）、地域の英語ボランティアの協力を得て、子どもたちに寄り添える様工夫改善を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

・ ねらいを明確にするため、全職員で子どもたちの活動の様子から、カリキュラムマネジメントの手法を使い、PDCAのサイクルで子どもたちにどのような力が必要なのか、考察する場を設定した。

・ 地域との連携を図るため、地域学校協働本部のコーディネーターを通じて、学校のねらいや取組の内容等を周知し、そこから地域人材への手配やねらいの説明等を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・ 今年度の、活動について全職員で総括を行った。活動当日の写真を持ち寄り、その写真から子どもたちの生き生きした姿や逆にそうでない姿等を選び出し、なぜそのような姿になったのか、その改善のために、どのような改善が必要なのかをマネジメントした。その結果、各学年がねらいをさらに明確にもち、普段からそのねらいに即した学習活動を意図的に仕組む必要があることが明確となった。そして、高学年が伝えようとする姿勢が具体的な工夫となって表れていたことが成果であった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・学校が発行する学校通信「白砂千松」、学校ホームページでの子どもの姿の掲載等の発信を行った。それにより、各家庭やホームページを見ていただいている不特定の方々に学校の取組の様子を知っていただくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・ESDコンソーシアムとの連絡を取り、本校が行っている取組を発表する場を提供していただき、他の学校の実践発表を聞くなど、交流する予定であった。(昨年度はできたのだが、今年度はインフルエンザによる学年閉鎖により参加できなかった)

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・奈良県にある奈良市立飛鳥小学校との交流を継続しており、5年生同士がビデオレターやスカイプなどを使って交流を行い、次年度6年生になったときに、本校から飛鳥小学校へ修学体験学習として行き、交流を行うという、2学年に渡ったコミュニケーションネットワークを構築している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・他校との交流により、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られる様になった。これは、奈良市立飛鳥小学校に対しても、オーストラリアのブラックウッド小学校に対しても言えることである。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・6年生が5月に、修学体験活動を行い、奈良市立飛鳥小学校へ行き、奈良公園内の歴史学習を通して、コミュニケーションを図る。
・6月に、「ふるさと歴史探訪」を行い、全校児童が縦割り班に分かれ、校内にある歴史遺産をめぐる、ふるさとのよさを知る。
・夏休みを利用指定、職員の研修を行う。
・10月～3月にかけて、オーストラリアのブラックウッド小学校の5、6年生と英語を通じて複数回の交流を行い、お互いの文化について知り、コミュニケーションを図ったりする。